



- (3)外洋に直接面する東西方向の比較的小規模な谷でとくに遡上高が高い。
- (4)松島湾などの内湾は津波遡上高が低くなる傾向を持つ。
- (5)仙台平野などでは全体としては津波遡上高は低い、遡上距離は数キロに及ぶ。

#### 今後の検討課題

- (1)波長ごとに見えてくる変動の意義についてはさらに検討の余地がある。
- (2)この検討は、まず遡上高の分布の概要を知るため、2.5 万分の 1 の地形図および 10mDEM という位置精度の比較的粗いデータを用いている。地形図および DEM とともに、精度を高めた詳細な検討は今後の課題である。

#### データ提供について

GIS 情報は、情報をもつ位置精度上の制約があるため、GIS 情報を一般には公開していません。研究もしくは災害業務のために必要な場合は個別にご相談下さい。

#### 付記

本研究の主担当は奈良大学教授の海津正倫であり、GIS 化の作業は、奈良大学地理学教室の碓井照子教授・海津正倫教授と多数の学生・大学院生が担った。

津波被災マップ作成チームメンバーは、以下の通り。鈴木康弘（名古屋大・代表）・海津正倫（奈良大）・石黒聡士（名古屋大）・碓井照子（奈良大）・後藤秀昭（広島大）・杉戸信彦（名古屋大）・中田 高（広島大）・廣内大助（信州大）・堀 和明（名古屋大）・松多信尚（名古屋大）・渡辺満久（東洋大）

問い合わせ先：

e-mail : [tohoku.tsunami.map@gmail.com](mailto:tohoku.tsunami.map@gmail.com)

FAX : 052-788-6039